

お な り ば し

# 御成橋

中部地方の  
選奨土木遺産

所在地：静岡県沼津市 竣工年：1937（昭和12）年  
管理者：静岡県沼津土木事務所  
認定理由：昭和初期に沼津市街地から伊豆の遊覧地へ向かう観光道路の象徴的地点として再建されたバランストイドアーチの鋼橋。

平成30年度登録



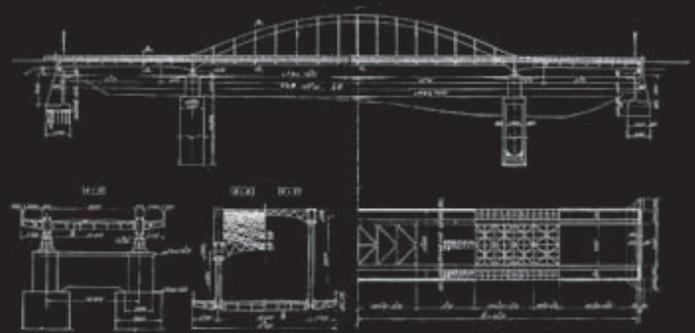
下流側から望む御成橋

現在の御成橋は、1876（明治9）年の初代木橋（港橋という名称だった）から5代目、1912（大正元）年に御成橋と改名されてから2代目の橋で、1937（昭和12）年7月に竣工した。上部工はのバランストイドアーチ橋（橋長130m）で、下部工が扶壁式鉄筋コンクリート橋台、つまり2基の井筒基礎上の鉄筋コンクリート柱を矩形のコンクリート梁で連結した橋脚となっている。

御成橋が跨ぐ狩野川は、日本でも有数の降雨地帯である天城山系にその源を發し、昭和40年に狩野川放水路ができるまでの間、大規模な洪水被害が頻繁に発生していた。御成橋は開通した翌年の昭和13年の集中豪雨、昭和33年の戦後最大級の狩野川台風による水害や、昭和20年の空襲で爆弾破片が鋼鉄柱に当たる戦災など、幾多の受難によく耐え抜いてきた。

「御成橋」の名の由来は、明治26（1893）年、皇太子の御静養を目的に造営された沼津御用邸に向かう道筋で、沼津の街を通過して渡った橋として「おなりばし」と命名されたことによる。昭和初期には、この道路は東海道線から降りた旅客を迎え、静浦・内浦・西浦の海岸や、土肥金山や長岡・修善寺などの温泉郷といった、景勝と遊覧の地へ至り、「伊豆の生命たる遊覧道路として尤も枢要なる幹線」と位置づけられていた。

現在も、御成橋を中心に数々のイベントが開催されるなど、そのシンボル性を誇っており、地域の人々に愛されている土木遺産である。



▲ 御成橋一般図（土木建築工事画報第13巻3号、1937.3）

今も遺る空襲の痕跡 ▶



竣工間近の御成橋（同上）



沼津夏祭り狩野川花火大会の様子（沼津市企画部提供）

